



縄文服の塗り絵を楽しむ児童

「じょうもんじだい」に興味津々

9月24日、向陽小学校で「郷土学習“縄文の魅力をも未来世代へ”」の授業が行われました。

市では、令和4年度から小中一貫教育を実施する予定であり、その柱の一つに「つがる市型郷土学」の実施が掲げられています。授業は、そのさきがけとして同校と木造高校が連携して実施するもので、使用する教材は木造高校の生徒が各学年の学力に合わせて作成しました。

この日は、1年生43人が縄文時代の暮らしや縄文人の特徴について学習。木造高3年の三橋美優さんら6人の生徒が先生となり、縄文服の塗り絵などを楽しみながら縄文文化への興味を深めました。藤田みやびちゃんは「星の模様をつけてかわいく塗れた。お話し楽しかった」と話していました。

岩木川流域の環境保全に貢献

岩木川環境公共ネットワーク協議会（荒谷政志会長）は7月3日、地域環境保全などに顕著な功績があった方を称える「地域環境保全功労者表彰」を環境大臣より贈られました。

同協議会は平成23年に設立し、つがる市をはじめ岩木川流域の市町村などで活動を展開。行政やNPO団体、企業と連携しながら、流域の景観づくりや環境保全に関するフォーラム開催など幅広く取り組んでいます。

10月2日、荒谷会長が福島市長に受賞の喜びを報告。荒谷さんは「10年続けてきた取り組みが認められた。これからも関係機関と連携して川をきれいにする活動を続けていきたい」と話していました。



福島市長に受賞を報告した荒谷さん



作品を見ながら意見交換する参加者

聴覚障害者の生活知って 4コマ漫画で啓発

木造高校美術部イラスト同好会では、聴覚障害者が日常で困っていることなどを題材にした4コマ漫画集を制作しています。これは、誰もが親しみやすいイラスト（漫画）で、ろう者と聞こえる人との相互理解を促進しようと、同校と市が協力して実施する取り組み。12月の完成を目指しており、市ホームページへの掲載などで啓発に役立てられます。

10月2日、同校に西北五ろうあ協会会員を招き、部員ら16人が描いたラフ画の意見交換会を開催。同協会の成田明子事務局長らが「これは経験がある」「簡単な表現にしよう」などと助言しました。白戸琴弓部長は「内容が伝わるか不安だったけど、具体的な意見をもらったので改善したい」と話していました。

貴重な水利資料を図書館に寄贈

つがる市出身で元青森県職員の笹森新一さん（青森市在住）が9月25日、津軽の新田開発や農業水利などに関する図書・郷土資料合わせて82点を市立図書館に寄贈しました。

寄贈品には、江戸時代後期に作製されたとみられる「奥州津軽之図」や明治時代初期に描かれたとみられる「西北津軽郡絵図面」など古くて貴重な絵図もあり、図書は郷土資料コーナーに並べられ、絵図は複写版を自由に閲覧できるように配置します。

10月7日、貴重な資料を提供してくれた笹森さんに対し、福島市長が感謝状を贈呈。笹森さんは「農業水利は経済活動のために整備されたものだが、景観や風俗、祈りといった文化も生んだ。幅広く活用してもらえれば」と話していました。



絵図を紹介する笹森さん

市産野菜を使って味噌汁作りに挑戦

10月9日、森田中学校（秋元裕教校長）で「あおり食命人による調理講座」が開催され、3年生22人が市産野菜を使った具だくさんみそ汁と生姜おむすび作りに挑戦しました。

あおり食命人は、食と健康について専門的に学び県から登録を受けた事業者のことで、この日はホテル青森社員食堂ポンデママ店主の柿崎和江さんを講師に迎えました。柿崎さんは、みそ汁はアミノ酸やビタミンB群などの栄養素が豊富なことや、野菜の栄養を逃がさないよう皮ごと調理することなどを説明した後、各班をまわって野菜の切り方などを教えていました。

参加した野宮悠斗さんは、「先生にゴボウの回し切りを教わった。家でもみそ汁を作りたい」と話していました。



生徒に野菜の切り方を教える柿崎さん（右）



入賞者は次のとおりです。

- ▷最優秀賞 井上朝陽（森田中2年・中央）
- ▷優秀賞 小関青空（同・中左）、佐藤謙行（同・中右）
- ▷佳作 藤田旺志郎（柏小5年・左）、鳴海花（瑞穂小4年・右）

好きなテーマを図書館で研究

「第4回市立図書館を使った調べる学習コンクール」の表彰式が10月10日、同図書館で開催され、入賞者5人（写真下参照）が葛西教育長から表彰状を贈られました。

最優秀賞は、井上朝陽さんの作品「なぜ、青森県で縄文のムラが栄えたのか」。「ちょうどいい」をキーワードに、青森県は気候、地形、食べ物など文化が栄えるのに適した土地だったことをわかりやすくまとめました。井上さんは「地形の資料を探すのに苦労した。縄文時代のすごさをみんなに知ってもらいたい」と話していました。同図書館は、井上さんと小関青空さんの作品を11月開催の全国コンクールに応募。また、入賞者全員の作品（複写版）を図書館内に展示します。

火災予防を呼びかけ

「その火事を 防ぐあなたに 金メダル」を全国の防火標語とし、県下一斉で秋の火災予防運動が10月19日から25日に展開されました。

10月19日、市消防団（箱田鐵雄団長）による火災予防パレード出動式が松の館周辺で開催され、消防団員65人と消防車両22台が集結しました。

出動式では、福島市長が「団員一丸となって地域全体で見守り、支え合いながら、安心・安全なまちづくりの推進に取り組んでください」と団員らを激励。続いて箱田団長から訓示を受けた団員らは、一斉に消防車両に乗り込み、住民に火災予防を呼びかけるパレードに出発しました。



箱田団長の前に整列する消防団員



晴天に恵まれた渡り初め

車力と中里をつなぐ橋が開通

10月20日、車力町と中泊町中里を結ぶ県道バイパス「五所川原車力線」が開通し、バイパスの一部となる「津軽令和大橋」（全長約600m）上で記念式典が開催されました。

式典では、式典の実行委員長を務める中泊町の濱館豊光町長が「つがる市と中泊町の発展だけでなく、津軽半島全体に多大な波及効果をもたらすことを期待します」と式辞を述べ、福島市長らとのテープカットで完成を祝いました。このあと、3代夫婦が一家で暮らす富范町の松橋伊左美さん家族と、同じく中里の長利勝夫さん家族を先頭に、出席者が渡り初めを行いました。

車力町と中里が直結されることにより、当市と中泊町の交流促進、施設の相互利用など地域活性化が期待されます。